

卷之三

三
月
四
日

社告

時事新報

國勢擴張は百年の業なり

我國の人心にも或は斯^{スル}る懐^{なき}やモ聊^シか疑^{はざ}るを得ず例^ハ臺灣征討の當時に於ては何事ぞ差し置きたるに新領地の始末は急^にせざる可らずとて一般に熱心しに引換^ヘいよ^ヘ平定^の今日に至りては道路の開通、港灣の修繕等速に断行せざる可らざるの事業多きにも拘^はらず世間の人心甚だ冷淡にして前日の熱心を見ざるは如何^ノにも不思議の次第にして或は國民が業に已に領土擴張の事業に厭きたる内情はなきか若しも果して然らんには佛人と同じく租稅の負擔に苦情を唱ふるに至るやも知る可らず左りとては口惜しきさ次第のみか日本人の耻辱^をみそあれば我輩は國民が今より擴張の事業を以て單に目前算政上の利益を求むるものと爲さず着眼を一層高尙にして永遠の結果を期せんふとぞ希望するものなり此頃佛國の外務卿アノト一氏は眞國人に告げて國勢擴張は目前の算數に於ては得失相償はずして直接に本國の富を作るものに非ずと雖も然れども大國民の擴張は斯る浅近の目的に非ずして新國土に向つて本國の名目を付し其感化を及ぼし其國語を廣げ又其思想を植ゑ以て文明進歩の力を助くるに在りと云へり此言たる我國民に取りて恰も胸門の一針とも見る可きものなり日本國民にして新領地經營の結果を眼前に求め之を得ざれば忽ち慘厭の情を憚はすが如きは卵を見て遠に鳴かんふとを欲し其鳴かざるを起りて之を破ると詞譏、性急の甚だしきものにみそあれば今後植民の政策は百年の大業として施設には果斷施行を爲ひながら其報酬は氣を長く見て永遠の後を期するの誠信なかる可らず我輩の敢て二書して警しむる所なり

卷之三

○佛門見

○佛門見聞星川

フランス・ヴァーレル共和国に於てボーアー
終に英兵の敗北に歸せしと聞き獨帝

ラ・ンス・ヴ・アール共和国に於てボーア一人を英兵と
絶対に英兵の敗北に歸せしと聞き獨帝は慇々電報を

て該共和国大統領クルーゲル氏の功名と事の外賞賛せられ
しかば英國民は是れぞ我國を侮辱せる所行なりと
り甚しく或は兩國の平和破れんかと危ましめたり
獨帝は如何なる意志ありて斯の如き振舞を演じ事
に事を起せしやど云ふに近來帝は國內に於て日に
々上下の不人望を買ひ社會黨の如きは殆んど帝
馳観する上に各聯邦の議公に對する折合も次第に
となり又帝の弟なるヘンリー公、フレデリックレ
ルド公等とも互に意見を異にし遂にレオポルド公
反目はいよいよ烈しく或は拳銃を走越さんとする
にて人心驚々たる左れば帝の周囲は恰も敵のみに
其立派危く不安心に堪へ兼ねしかば愛に一矢を書
目下國內の人心離叛を調査し衆望を收むるには外
心を轉せしむるわざ思案の妙策なれど取て間隔も
ツラソスヴァールの大統領へ賞賛の辭を送りしる
りと云ふ(ウエストヨンスター ガゼット)

禪の行はるゝを流行はりふし
べし、無論の流行と曰く
義太夫の流行を見る
居なりしか、賭賭わくわく
と見るを見る人の勝
の流行とば何とか見
野狐のきゆ多しと云へる
葛藤かつとうと野狐禪ならぬ
ば、ふの言葉にも從
人、本體ほんたいを知らずし
てと鳴くなり、「
通つう解けい察にあらぬ先見せんけん
眞智しんちならんと云ふ。
へしや、禪は即身即物そくじんそくぶつ
ありとせばそば
大乘だいじょうの如くは假想かそうが
前段ぜんたんも無くして
玉境ぎょくきょう不^可能こうのうなりと雖ま
言こと慧えい空くうの旨しは、ちよつ
と

○英獨紛糾の由來と獨帝の魂膽
東京商業會議所會頭澁澤第一殿
戰後經濟の實況調査委員長 奥三郎兵衛
決定し同七時三十分散會せりと云ふ
第四十八回臨時會議に於て附托せられたる戰後經濟の實況調査の件並に償金處分の件は其後取調中の處今回政府の帝國議會へ附議せられたる豫算案及び同案附屬の参考書類に據りて今後歲計の方針を審議するに明治二十九年以降は其歳人に急激の増加を來たし若し此方針の如く實施せらるゝに於ては國家財政の前途測る可るもの困難を生ぜんふとぞ恐るしが故に本委員は此際先づ本會議所より戰後經濟に關する大體の方針を公表して當局者の注意を喚起するの要を認め取敢へず別紙の如く内閣總理大臣へ建議する方然るべしと決せり尙ほ今回政府より議會へ附議せられたる新稅法案の得失は勿論償金の償途其他將來に施設すべき方策等本會議所が本問題の範圍内に於て研究を要すべし其題一にして足らずと雖も此等は必ずしも一時に包括して調査するふとを爲さず今後其繁惡に應じ別に本會議所の題案として個々研究するものとし其時々更に委員会と設けて之と附托する方調査の周到と期するに於て便宜あるべしと信す此段別紙を添へ及報告候也

く榮門は遙に暮し、人々皆外國人にしてまでわが國風に違ふれるならん。」
顧を修せんとする人外に渡邊南暉、北野唱法話を聞くもの多く、
めて下谷に來り講筵性に志すものは鎌倉古の兵學兵法は禪槍術柔術居合等のとするものあり。さくらんばりかくらすと爲さるが如し。」
禪の行はるゝを見て者ありとか、人は恐と誤解して一笑を買し、斯る眼玉にては、

が加わるなどからも今日の現況は一層して再び不景氣の
情況を呈する所となつて必ずしもからざるなり又本會議
商工業の高揚を見かれし所以は一旦支出したる軍費の
大部分再び國內に回収せられて通貨の膨脹を未だし一
時市場に活気を發揮へなるに因るものと謂はざるべから
ず果して然らば此等は寧ろ一時の現象にして國力増強
の反映と認むべからざるなり然るに斯くの如き一時の
現象を以て前途財政規畫の根據と爲すは本會議所の私
に危機に堪へざる所なり
以上陳述するが如き理由なるを以て今日政府が戦後の
經濟を整理するに當りては勉めて急激の施設と避け
能く國力を量り民度を察し以て徐歩漸進するの方針を
執られんると本會議所の深く希望して措く能はざる所
なり仰き願くに聞下本會議所の徵兵を採納せられんと
切望の至に兼へ此段本會議所の決議に依り建議仕
候也

○戦後經濟調査委員會 東京商業會議所にて

昨日午後六時より^{新潟・福井・長崎}後經濟調査委員會を開けり出席
者は濱澤會頭を始め委員長奥三郎、兵衛、委員大江卓、中
野武蔵、佐久間貞一、加藤正義、伊藤幹一、豊川良平の
諸氏にて種々審議を遂げし後左の報告書を差出す事こ
越の執事には弘平脱
せし近江清涼寺の石
碑は一兩年來漸く世
派に付て詰めする人